

小児科

1. 【一般目標(GIO)】

小児科及び小児科医の役割を理解し、適切に小児医療を行うために、小児の特性を学び、必要な基礎知識・技能・態度を修得する。

2. 【行動目標(SBOs)】

- 1 良好な病児・家族（特に母）医師関係の確立
- 2 チーム医療の実践を経験する
- 3 カルテの記載を正確に行い、問題点の抽出を行いそれに対して対策を立てられる
- 4 小児ことに乳幼児に不安を与えないように接し、保護者に対して指導医とともに適切な病状説明を行い、療養指導ができるようになる
- 5 小児の全身を診察し、緊急に対応が必要かどうかを把握し提示できる
- 6 小児疾患の理解に必要な症状と所見を正しく捉え、理解するための基本知識を修得する
- 7 必要な検査を選択し、その結果を正しく解釈できる
- 8 小児の採血、点滴、皮下注射ができる
- 9 小児の導尿、注腸・高圧浣腸、胃洗浄、腰椎穿刺、骨髄穿刺をできるかぎり経験する
- 10 小児に用いる薬剤（輸液）の知識と使用法、小児の体重別・体表面積別の薬用量の計算法を身につける

3. 【方略】

	【対応するSBOs】
1 小児科入院患者の担当医として、主治医である指導医とともに診療にあたる	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10
2 小児科の主治医グループの一員として、チーム医療に参加する	1, 2
3 毎日上級医と一緒に回診を行い、その結果をカルテに記載する	1, 2, 3, 4
4 救急患者の対応・処置を上級医とともに行う	5, 8, 9
5 カンファランスや毎日の回診を通じて知識の習得を行う。また、コアカンファランスを行い知識を整理・発表する	2, 5, 6, 7
6 担当患者の検査計画を上級医とともに立案する	3, 5, 6
7 病棟、外来で上級医とともに処置に当たる	8, 9
8 上級医の指示のもと、実際に処方を行う	10

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSBOs】
担当した入院患者の疾患と患者数	指導医・コメディカル	患者退院時又は研修終了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオによる	6, 7
診療態度	自己・指導医・コメディカル	研修中旬 研修終了時	フィードバックシート	1, 2, 4
関連手技	自己・指導医	研修中旬 研修終了時	ポートフォリオによるチェック	8, 9
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・コメディカル	毎週	口頭でのフィードバック	2, 5, 6, 7
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表	6, 7

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	病棟グループ回診 採血など処置 外来 予診 (初日オリエンテーショ ン)	病棟グループ回診 採血など処置 外来予診	朝病棟グループ回診 採血など処置 外来予診	病棟グループ回診 採血など処置 外来予診	病棟グループ回診 採血など処置 外来予診
午後	病棟 退院カンファランス 抄読会 若手医師カンファランス	病棟 夕方グループ回診	病棟 夕方グループ回診	病棟 夕方グループ回診	病棟 入院カンファランス 抄読会

6. 研修医の事前準備

小児科教科書のおさらい、カンファランス前に患者の要約を確認。毎週の週間サマリー記載。

7. 【研修指導体制】

研修責任者： 森内浩幸

指 導 医： 木下史子、中嶋有美子、伊達木澄人、白川利彦、小形勉、里龍晴、蓮把朋之、船越康智、橋本邦生、佐々木理代、原口康平、庄司寛章、谷岡真司、大西愛、高瀬雄介、渡辺麻美、草野智佳子、大園恵梨子、二里茉莉、河田宗一郎、尾曲久美、の計22人で指導に当たる。

コメディカル： 病棟師長、主任

8. 【緊急連絡先】

小児科医を通して連絡先を確認する